

岩手県の 土地改良



CONTENTS

- 新年のご挨拶
水しりネットいわて会長 及川正和 2
- 新年にあたって
全国水しりネット会長 野中広務 3
- 阿部克郎氏「旭日小綬章」受章 4
- 全国土地改良大会沖縄大会が開催 5
- 熊谷信義氏が農林水産業表彰を受賞 5
- いわて結いっこシンポジウムが開催 6
- 井上良一氏、黒澤金一氏を表彰 7
- 平成24年度絵画・写真コンクール入賞作品決定 7
- 東日本大震災による被災農地の復旧状況 8
- 今後の行事予定 8

2013(1月号) No.562

発行所 岩手県土地改良事業団体連合会 盛岡市本宮二丁目10番1号
TEL(盛岡)019(631)3200 FAX(盛岡)019(631)3260

編集発行人 田山 清 印刷所 永代印刷株式会社
<http://www.iwatochi.com>

祈願の御神灯(花巻市東和町)
平成24年度写真コンクール応募作品





新年のご挨拶

岩手県土地改良事業団体連合会
会長 及川 正和

新年明けましておめでとうございます。

平素会員の皆様方には本会の運営に特段のご高配を賜りますとともに、農業農村整備事業の推進に多大なるご尽力をいただき、厚くお礼を申し上げます。

さて、未曾有の被害をもたらした東日本大震災からまもなく2年が経過しようとしています。昨年は、震災の早期復旧・復興への取組に全力を傾けた年であり、今年度内には内陸部において被災した農地の全てと、津波で被災した沿岸部の農地の約4割が復旧する見込みとなりました。

県では、平成25年を基盤復興推進年として位置づけ、人材等を集中的に配置する方針とお聞きしておりますが、当連合会においても今年度に比べ、より多くの職員を県の沿岸広域振興局に派遣し、その支援にあたることとしております。1日も早い復興を願わずにはいられません。

被災地の復興は、これから正念場を迎えることとなりますが、その一方で、昭和30年代以降に整備した取水施設や用水路などの基幹的農業水利施設は、本県の厳しい気象条件の中で老朽化が進み、この度の震災でも大きく被災するなど、用水の安定供給に不安が高まってきております。本県が、これからも将来にわたって日本の食料供給基地としてその役割を果たしていくためには、整備の遅れている農業生産基盤の整備とともに、農業水利施設の長寿命化に向け整備補修を着実に進めていかなければなりません。

一方、農業に壊滅的な打撃を与えるのではないかとされている環太平洋経済連携協定（TPP）への参加の是非は、未だ不透明な状況であります。TPP交渉によって、日本の食の安全・安心を担い、多面的機能を発揮している農業・農村と、これを支える農家の生産意欲に悪影響を及ぼすようなことは、決して許してはならないと考えております。

こうした中、新政権においては、経済対策の柱のひとつとして、平成24年度補正予算と平成25年度当初予算を合わせて、平成21年度を超える水準まで農業農村整備対策予算を確保するとの報道がなされているところであります。食料供給基地を標榜しながらも、基盤整備の遅れにより、各種農業施策の恩恵を十分に享受できていない本県にとりまして、予算の復活という、又とないこの絶好の機会を逃すことなく、農業農村整備の加速的な推進を図らねばなりません。

本会といたしましても、このような状況を踏まえ本県選出国議員に対し、補正予算の確保はもちろん、後々の予算の基本ベースとなる平成25年度当初予算の十分な確保、そして、これに対応する地方負担への手厚い交付税措置を強く要望したところであります。さらに、県知事に対しても、国の予算の増額に対応し得るよう、「農業農村整備にかかる県予算の確保に関する要請」を行ったところであります。

今後とも、社会情勢の変化に即応し、会員皆様方からのお力添えをいただきながら、岩手県の農業の発展と、農村の活性化を図るべく、その要請に応じて参りたいと考えておりますので、より一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

本年が平穏無事で皆様にとりましてより良い一年となりますことを、ご祈念申し上げ年頭のご挨拶といたします。



新年にあたって

全国土地改良事業団体連合会
会長 野中 広務

平成二十五年の年頭に当たり、全国の農業農村整備事業の推進に御尽力いただいております皆様に、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

農業・農村は、国の大本であり、日本の豊かな国土や自然環境も、農業・農村が健全であって初めて維持されるものであります。このため、先人達は農業・農村が健全に発展していくために、農地や農業用水などの維持、向上に向け、献身的な努力を続けてきました。

しかしながら、東日本における最大規模の地震や津波、原子力発電所事故や台風等による集中豪雨は、先人達の努力の結晶を破壊し、これらの地域の農業・農村に大きな爪痕を残しました。現地では、一刻も早い復旧、復興に向け、更なる国の力強い支援を強く望んでいます。また、原子力発電所事故を受け、再生可能エネルギーへの国民の関心が高まり、農村の土地・水資源を活用した小水力発電等への期待が大きくなっているところ です。

一方、全国の農業・農村においては、過疎化、高齢化、担い手不足に加え、地域活力の低下などの課題が山積しています。特に農業水利施設の老朽化は、食料生産の増大、転作作物への転換に影響を及ぼし、食料自給率の向上に支障を来すばかりでなく、農村地域の災害の増加をもたらすのではないかと大変危惧しております。

さらには、環太平洋経済連携協定（TPP）交渉について、交渉参加国間で本年中の交渉妥結を目指すことが確認されたことを踏まえ、我が国がTPP交渉に参加するの可否か判断を迫られるものと想定されます。

こうした状況の中、昨年十二月に衆議院議員総選挙が行われ、三年三ヶ月振りに政権が交代することとなりました。新政権においては、我が国の美しい、伝統ある農業・農村を守り、発展させていく施策を推進していくことを大いに期待するところです。今こそ、日本の食と農を守るための実効ある対策を、政府に求めてゆくべき時ではないかと思ひます。

一方、我々水土里ネット関係者も新政権に期待するだけではなく、水土里ネットの役割や農業・農村を守り、発展させていくことの重要性・必要性について、広く国民の皆様へアピールし、共感を得ていく努力が必要です。幸いにして、農地を集積し、経営規模を拡大することにより、新たな農業経営を展開すべく、全国各地で高い志を有し、地域農業を主導する若い人たちの取り組みも見られるようになってきております。地域の農業や農業情勢が大きく変貌してゆく中、「水」「土」「里」を担う中核的な存在である水土里ネットが、長年培ってきたノウハウを最大限活用し、新たな地域農業を切り開き、国民の財産である農業・農村を守り、発展させていくことが重要であります。そのことによって、水土里ネットと農業・農村に対する国民の皆様への幅広い共感が得られ、施策が安定的に実行されることを強く期待するところであります。

新しく輝かしい年の出発に当たり、私も皆様方とともに、全国の仲間とともに活動して参りますことを、身の引き締まる思いとともにここに改めてお誓い申し上げたいと存じます。

本年が全国の皆様にとって良き年でありますように、御健勝と御発展を祈念いたしまして、私の新年の御挨拶と致します。

— 平成 24 年秋の叙勲 —

阿部 克郎氏が地方自治功勞により 「旭日小綬章」を受章

(岩手県土地改良事業団体連合会理事・照井土地改良区理事長)

平成 24 年秋の叙勲において、阿部 克郎氏が栄えある旭日小綬章を受章され、授賞式が 11 月 3 日に皇居で行われました。

この度の叙勲は、氏の長年にわたる地方自治における功勞が認められたものです。

氏は昭和 39 年 1 月から平成 15 年 12 月までの 10 期 40 年余、一関市議会議員として務められ、その間、昭和 55 年 1 月から昭和 58 年 1 月まで議会副議長、平成 8 年 1 月から平成 14 年 3 月まで 6 年 2 ヶ月にわたり議会議長として市の発展に力を注がれました。

またこの間、総務常任委員会委員長、北上川治水対策特別委員会委員長並びに両磐地区消防組合議会議長として、北上川治水対策の推進、消防防災行政の整備充実に努められ、さらには、道路等公共施設整備など諸問題解決の先頭に立ち市勢発展に大きく寄与されました。

一方、農業振興においては、平成 8 年 11 月から現在まで照井土地改良区理事長として、農業基盤整備の推進を図り、さらに、平成 2 年 9 月からは、岩手県土地改良事業団体連合会の理事（平成 2 年 4 月～平成 15 年 8 月、平成 19 年～現在）、副会長（平成 15 年 9 月～平成 19 年 8 月）として、本県の農業農村整備の推進に貢献をいただいております。

旭日小綬章という大変名誉な章を受章されましたが、この受章は、氏のご功績はもちろん、ご家族の皆様のご支援の賜物でもあり、重ねてお祝いを申し上げます。

健康に留意され、今後とも農業振興を通じての地方の発展にご指導、ご尽力いただきますようお願い申し上げます。



岩手県土地改良事業団体連合会

全国土地改良大会 沖縄で開催

▶ 「水土里豊かな守禮の邦 美らさん
真心 おーきな和」がテーマ

第35回全国土地改良大会沖縄大会（主催：全国水土里ネット・水土里ネット沖縄）が、11月21日～23日にかけて、沖縄県那覇市の奥武山総合運動場武道館アリーナ棟他において開催された。

沖縄の本土復帰40年の記念事業として位置付けられた本大会で、全国から集まった約2,500人の参加者は、大会テーマである『おーきな和』で太い絆をつくり、地域農業の再生に向け、農村の環境保全の維持などに取組んでいくことを再確認した。

大会式典では、主催者の野中広務全国水土里ネット会長が「農業と農村は国の大本。食と農業、農村を守らないといけない。節目の年を迎えた沖縄で課せられた使命の重大性に決意を新たにしている。東日本大震災の現地では、一刻も早い復旧・復興のため、国の強力な支援を望んでいる」と挨拶した。

土地改良事業功績者表彰では、農林水産大臣表彰6名、農村振興局長表彰16名、全土連会長表彰46名が表彰された。本県からは、佐々木長孝前石島谷東部土地改良区理事長が全土連会長表彰を受賞した。

その後に行われた被災報告では、本県代表と



して気仙川土地改良区の熊谷研理事長が、津波による農地の被災と災害復旧事業等の進捗状況について説明するとともに、復旧・復興の継続的な支援をお願いした。



【全土連会長表彰の佐々木長孝氏】

大会宣言では、沖縄県農業青年クラブ連絡協議会の仲宗根正人さんと新崎薫さんが、「我々は地域農業の再生に向けて、農村の『水』『土』『里』を守り、引き継いで行くことを、本土復帰40年を迎えたここ沖縄から、高らかに宣言する」と力強く述べ、満場の拍手で採択された。

翌22日（水）から23日（木）午前にかけて現地視察研修が行われた。第二次大戦後に占領された読谷村内の農地を受益とする県営畑総事業・かんがい排水事業 読谷中部地区の整備状況を視察し、土地改良事業の重要性を再確認した。

熊谷 信義氏 (前花泉土地改良区理事長) が受賞

▶ いわて農林水産躍進大会が開催

平成24年度いわて農林水産振興協議会（会長：達増拓也県知事）が主催する岩手農林水産躍進大会が12月18日、岩手県民会館大ホールで開催され、農林水産関係者ら約800名が参加した。

本大会では、農林水産業推進と功績者等に対して表彰を行っており、今年度は、熊谷信義 前花泉土地改良区理事長が、岩手県農林水産業表彰



【表彰される熊谷信義氏】

（県知事表彰）を受賞した。

氏は、土地改良区の理事長として長年に亘り、土地改良事業の実施と事業を契機とした集落営農の推進や土地改良区運営基盤強化の取組等が評価された。

「いわて結いっこシンポジウム」が開催

▶ 「地域における農地・農業用水の資源保全の取組を強化

岩手県と岩手県農地・水・環境保全向上対策地域協議会（会長：田山清岩手県土地改良事業団体連合会専務理事）は、11月28日、盛岡市のいわて県民情報交流センター7階のアイーナホールで「いわて結いっこシンポジウム」を開催した。県内の各活動組織や関係者ら約450名が参加した。

同シンポジウムは、地域協働による農地や農業用水などの資源の保全管理等の取組の充実・強化を図ることなどを目的に開催したもので、満員となった会場からは「農地・水保全管理支払交付金」を活用した活動に対する期待の大きさを伺うことができた。

冒頭、東大野潤一 県農林水産部長が、「このシンポジウムを契機として、多くの方々に、農業・農村が持つ多面的機能や、地域協働による資源保全活動の意義や必要性についての理解を深めて頂く機会となることを期待します」と挨拶を述べた。



【挨拶をする 東大野部長】

表彰式では、アドプト協定を締結し他地区の模範となる優良な活動を行った6団体に「岩手県アドプト活動モデル賞」を、水路や耕作道などの保全管理を持続的に行う活動において、優れた取組を行った6団体に「岩手県農地・水・環境保全向上対策活動モデル賞」がそれぞれ授与された。

また、宇都宮大学農学部の水谷正一教授が「みんなで広げよう！地球の“絆”、守ろう！美しい農村環境」と題して基調講演を行い、栃木県で行っている田んぼのまわりの生き物調査の取組事例を紹介し、住民が生き物を意識するようになったこ



とや地域のまとまりが強くなったこと、さらに、この調査によって地域が変化していく様子などについて説明した。



【講演をする 水谷教授】

事例発表では、岩手大学農学部の広田純一教授をコメンテーターに迎え、地域全体でホテルの保全活動に取り組んでいる奥州市の胆沢区若柳第16区行政区、消費者や非農家との交流を積極的に展開している盛岡市の見前町環境保全協議会、東日本大震災津波の被災地の中でも、最も早く宮農を再開し、地域農業の復興に取り組んでいる摂待水利組合農地と水の会から活動事例が紹介された。

岩手県アドプト活動モデル賞

- ◇ 舘迫幹線水路環境整備委員会、猿ヶ石北部土地改良区、花巻市
- ◇ 胆沢区若柳第16区行政区、胆沢平野土地改良区、奥州市

岩手県農地・水・環境保全向上対策活動モデル賞

- ◇ 見前町環境保全協議会（盛岡市）
- ◇ 藤里寿集落活動組織（奥州市）
- ◇ 長沼地区農地・水・環境活動組織（北上市）
- ◇ 農地・水・環境保全向上徳田地区活動組織（一関市）
- ◇ 摂待水利組合農地と水の会（宮古市）
- ◇ 銀杏会活動組織（九戸村）

「岩手県農業委員大会表彰式」

- ▶ 井上 良一 氏が農政功労者表彰
黒澤 金一 氏が農業委員会等活動表彰（農業者年金部門）

11月9日に開催された第57回岩手県農業委員大会（主催：岩手県農業会議）において、井上良一元岩手山麓南部土地改良区理事長が『農政功労者表彰』を、黒澤金一方井土地改良区理事長が『農業委員会等活動表彰（農業者年金部門）』をそれぞれ受賞されました。

井上氏の受賞は、長年にわたる土地改良区の運営及び農村振興への寄与が認められたものです。

また、黒澤氏は農業者年金制度への推進活動

に尽力されたことが認められたものです。



【表彰される井上氏】



【表彰される黒澤氏】

平成24年度 絵画・写真コンクール入賞作品が決定

水土里ネットいわては、10月31日、「平成24年度 小中学生による美しく豊かな村づくり絵画コンクール・農村景観写真コンクール」の優秀作品選考会を開催し、約230点の応募があった中から、絵画部門33点、写真部門6点の計39点を選定した。

入賞作品及び応募作品については、今後の広報活動に幅広く活用されることとなっている。

また、11月28日に盛岡市で開催された「いわて結いっこシンポジウム」において、入賞作品が展示された。

【絵画部門 金賞受賞作品】

●低学年の部



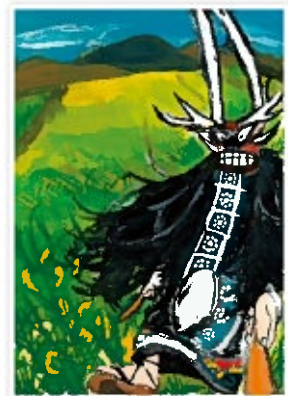
「仮設のおばさん、こうやってうえるの？」
小泉舞桜

●高学年の部



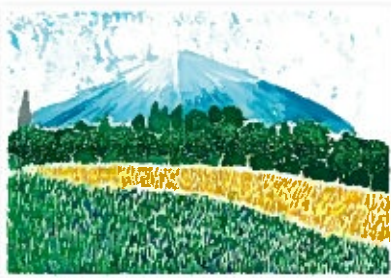
「いきを合わせてがんばるぞ」
瀬川政介

●中学校の部



「豊穰を願って」
菅原れみ

●中学年の部



「きれいなきれいな岩手山」
吉田菜風



【写真部門 最優秀賞作品】

「巻雲の下で」
藤沢俊司

（敬称略）

東日本大震災による被災農地の復旧状況

▶ 岩手県内の復旧状況と見込み



摂待地区工事の着工

東日本大震災により未曾有の被害を受け、「復興元年」と位置付けられた昨年、県内の復旧対象農地 1,190ha のうち、平成 24 年 12 月までに 617ha (52%) の復旧が完了した。

内陸部は、復旧対象農地 473ha の全てが平成 24 年 12 月まで完了した。

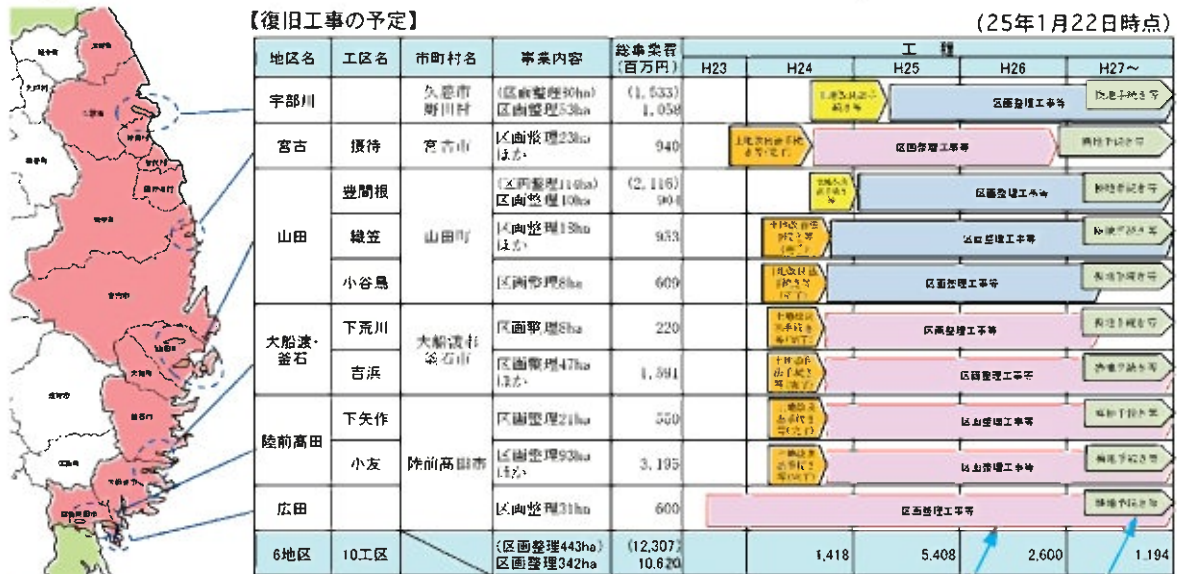
一方沿岸部は、復旧対象農地が 717ha で、面工事が着手可能な 311ha のうち 144ha (20%) の復旧が完了し、平成 25 年 5 月末までに累計で

259ha (36%) の復旧見込みとなっている。

また、宮古市田老町の摂待地区では復興交付金事業による県内第 1 号の工事となる、ほ場整備の起工式が平成 24 年 11 月 13 日(火)に行われた。地元では早期完成と再生後の農地での営農に大きな期待を寄せている。

【災害復旧事業と併せて実施予定の県営ほ場整備事業等の導入について】

県営災害復旧事業による原形復旧に加え、復興交付金事業を活用した、併せ行う県営ほ場整備の事業 (6 地区 10 工区 337ha) を H 24 年度に採択した。H 24 年度内に土地改良法手続きを了し、順次工事に着手。25 年度は全ての工区 (10 工区) で工事を実施する予定となっている。



※ () は、中山間地域総合整備事業などを含む全体
 ※ 広田地区(陸前高田市)は、中山間地域総合整備事業から移行
 ※ 〇 は、25年1月末までに着手した地区

区画整理工事等 換地手続き等

資料提供(岩手県農村建設課)

水土里ネットいわて 今後の行事予定

平成 25 年 3 月 1 日(金) 岩手県農業農村整備 議員クラブ総会
 平成 25 年 3 月 22 日(金) 水土里ネットいわて通常総会

次号 (No.563) は、4月発行予定です